

科学技術社会論学会 第 20 回年次研究大会

公開企画 2

科学技術社会論学会 20 周年記念プログラム（国内イベント）のお知らせ

科学技術社会論学会設立 20 周年を記念し、9 月 23 日に開催した国際イベント『JSSTS 2021 and Beyond－「科学技術と社会」を再考する』に引き続き、国内イベント『次の 20 年に向けて－STS とイノベーション研究』を、科学技術社会論学会第 20 回年次研究大会の初日（12 月 4 日）に以下の内容で開催致します。本イベントは、広く学会員以外の方々にも公開いたしますので、皆様の積極的なご参加をお願い致します。

また、本イベントの前の時間帯（12：50～14：10）に開催される名古屋大学実行委員会企画「名古屋大学におけるジェンダー平等のための取り組み：女性研究者採用・育成」と同一の URL を使用しますので、ご関心のある方はそちらも奮ってご参加下さい。

科学技術社会論学会 20 周年記念プログラム

国内イベント実行委員会委員会

小林 俊哉（委員長） 日比野 愛子 山口 富子 横山 広美

《実施要領》

開催日時：2021 年 12 月 4 日（土）14：20～16：20

（科学技術社会論学会第 20 回年次研究大会の初日）

開催方法：オンライン開催

参加費：無料

参加方法：

《本学会会員の方》…第 20 回年次研究大会にご参加の場合、予稿集に接続先 Zoom の URL が記載されておりますので、12 月 4 日の 14 時 20 分までにそちらからアクセスをお願いいたします。

なお大会には参加せず、本企画のみを視聴される場合は下記 URL の Google Form より 12 月 2 日（木）18：00 までに登録をお願い致します。

《非会員の方》…下記 URL の Google Form より、12 月 2 日（木）18：00 までに参加登録をお願い致します。

URL：<https://forms.gle/pQ76qm9N1LrwsLgM9>

プログラム：

14：20 開会ご挨拶：調 麻佐志 会長

14:25 ～14:55 基調講演1「STS からみたイノベーション研究との接点」

綾部 広則 教授（早稲田大学）

14：55 ～15：25 基調講演2「科学技術イノベーション政策研究と STS の今後」

林 隆之 教授（政策研究大学院大学 略称 GRIPS）

15:25～16：20（55分）パネルディスカッション

「STS と科学技術イノベーション（STI）政策研究はどうつながるか」

司会：久木田 水生 第20回大会実行委員

パネリスト：基調講演者2名／赤池 伸一 文部科学省 科学技術・学術政策研究所

（NISTEP）上席フェロー／青島 矢一 一橋大学教授／日比野 愛子 弘前大学准教授

企画の意図：

2021年春に、科学技術基本法が科学技術・イノベーション基本法に改訂され、わが国の科学技術政策の根幹にイノベーション創出が据えられました。基調講演者の綾部広則氏は本学会副会長であり、STS研究とイノベーション研究の接点についての考察を、昨春刊行された『科学技術社会論とは何か』（東大出版会）に、「第4章 イノベーション論—科学技術社会論との接点」と題する論考で発表されました。STSとイノベーション論は、STSが科学技術批判のスタンスを有していたことから、その関係は疎遠だった部分もあるが、イノベーションにおけるELSIの観点重視される傾向もあり、今後は実りある連携も可能になるのではないかという論点を今回は基調講演とパネルディスカッションで設定したいと考えております。イノベーション研究は、2011年に文部科学省により「政策のための科学」教育研究拠点事業（略称SciREX事業）という名称で教育研究プロジェクトとしてスタートしており、東京大学、一橋大学、大阪大学、京都大学、九州大学、GRIPSの6大学で事業展開されています。このSciREX事業には、多くの本学会会員が関与しています。そのためSTSとイノベーション論の連携を考える上で適切な登壇者がいます。もう一人の基調講演者の林隆之氏は本学会会員でありGRIPSにおいて核となってSciREX事業を担う一人であり、科学技術イノベーション政策の中で注目を集めているミッションオリエンテッドな社会変革モデルとSTSとの接点について研究されています。パネリストである、青島矢一氏は、一橋大学SciREX事業の現代表者であり、NISTEPの赤池氏はSciREX事業の文部科学省側の当事者でもあり、政策側の観点をお話いただきます。また、本イベント実行委員会からは日比野愛子氏がパネリストとして参加いたします。

ご不明な点がございましたら、kobayashi.toshiya.303@m.kyushu-u.ac.jp（小林 俊哉）までご連絡下さい。